



▲子育て支援センター「たけのこひろば」でおもちゃのお菓子を手にして笑顔になる子どもと、それをやさしく見守るお母さん

## 特集 子育て家庭を 支えるまち 御前崎

10月25日。市役所の隣にある八千代公園には、多くの親子が楽しそうに遊んでいる姿がありました。芝生の広場では、0歳児を抱えたお母さんが、

「いくよー。せーのっ…」

「高い高いー!」

と、青空に届きそうなほど高く子どもを抱え上げていました。

子どもはうれしそうに、

「キャッ、キャッ、キャッ」

と声を上げて笑っていました。御前崎市では、このような姿が市内のあちこちで見られます。

子育てでは、楽しいことも多いですが、不安や悩みがつきものです。昔は3世代同居の家族が主流でした。地域や親戚との関わりも多く、気軽に子育てについて相談することができたり、先輩世代から教わったりと、人との関わり合いの中で子どもを育てていました。ところが現在は、核家族や共働き家庭、ひとり親家庭の増加など、子どもを育てる環境が変化してきています。

子どもと遊んでいたお母さんたちに話を聞くと「子育ては楽しいです。でも、家にこもって一人で育児をする時間が一日の中で長いため、外の世界から孤立しているような気持ちになってしまいます」「市外から移り住んだばかりで、子育ての悩みを誰かに相談できなくて困っていま